

2015年1月4日 新年聖餐礼拝
説教「ヨシュア物語① 雄々しくあれ」

ヨシュア記1章1-9節

【ヨシュア】

出エジプトから40年、イスラエルを導いてきたモーセが死にました。神の人モーセはもういないのです。あとを嗣ぐのはヨシュア。これは、たいへんなことでした。ヨシュアも、どうせ自分にはモーセの後などつとまりっこない、と思ったにちがいないでしょう。どうせ自分には人々はついて来ないだろうと。

ところが、神さまは、「強くあれ。雄々しくあれ。」(9)とおっしゃいました。神さまが、ヨシュアに直接語りかけてくださったのです。「恐れてはならない。おののいてはならない。」(9)ともあります。モーセの後継ぎと言われて、ヨシュアは恐れていました。おののいていました。おののく、というのは、激しい動揺のために手足が震えることです。神さまは、震えるヨシュアを、震えごと抱きしめるようにして、さらに「あなたの神、【主】が、あなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである。」(9)と教えてくださいました。「ヨシュアよ、わたしはあなたとともにある。」と、震えるヨシュアにびたりと寄りそって、「強くあれ。雄々しくあれ。」とおっしゃってくださったのでした。

私たちは、「強くあれ。雄々しくあれ。」と聞くと、「あ、がんばらなければ、強くあらなければ」と、そう思ってしまう。ガンバレ、ガンバレと言われてきたし、自分もがんばらなければ、と思ってきたからです。でも神さまは、遠くの方から、もっとガンバレとおっしゃっておられるのではありません。そうではなくて、「強く、雄々しく、わたしを信頼しなさい。」とおっしゃるのです。

【主は救い】

ヨシュアという名前は「主は救い」という意味です。神さまが救い。救いは神さまにあるのです。イスラエルのリーダーが、モーセであろうが、ヨシュアで

あろうが、それは関係ありません。救うのは神さまだからです。

私たちがどんなにおののいていても、心配はいりません。おののく私たちさえも用いて、神さまはお救いになるのです。ですから、私たちはおののいていてもかまわないのです。おののきながらも、主は救いであることを覚えていればよいのです。

【強くあれ。雄々しくあれ】

「強くあれ。雄々しくあれ」は、神さまからの「ガンバレ」という言葉ではありません。「おののいてはならない」も、自分の力で、おののきを、からだの震えを止めよ、というのではないのです。神さまは、強く神さまを信頼せよ、雄々しく神さまに信頼せよと、そうおっしゃったのでした。

これは難しいことです。私たちは、ほんとうに弱っているときには、神さまを信頼することが出来ません。まるで水の中でおぼれているようで、そういうときこそ、神さまを信頼するべきだとわかっているのだけれども、それができないのです。自分でなんとか足場を見つけて、そこにすがりついたら、それから神さまを信頼しようと、そんなことを考えるものです。もちろん、それでも、神さまは助けてくださるのですが、私たちのどたばたによって、多くの問題が生まれてしまうのです。おぼれている最中に、からだの力を抜いて、神さまにつかまえていただくことは、時間がかかる訓練です。私たちはみなこの訓練を受けています。強く主に信頼する、雄々しく主に信頼することに熟達したいものです。

【ただ、律法を】

強く雄々しく主に信頼する者たちは、「すべての律法を守り行え」(7)と命じられています。律法とは、神さまと共に歩く歩き方です。救いはただ神さまのあわれみによります。罪ある私たちを、神さまがあわれに思って、救ってくださったのです。そして、救われた者たちに、歩き方を教えてくださいましたのが律法。ですから、律法は、それを守ったら救われる救いの条件ではありません。

これは普通に育った娘が、王さまに愛され、結婚して、王さまの宮殿に招き入れられるのと、似ています。この娘は、宮殿での立ち居振る舞いは何も知りません。ただ王さまに愛されただけです。けれども王さまは、この娘が王妃にふさわしい振る舞いができるように、手をとってひとつずつ教えることでしょう。教えることも王さまの喜び。娘が変わっていくことも王さまの喜びです。

私たちも同じ。ただ、主イエスの十字架によって救われた私たちです。私たちが救いの条件を満たしたからではありません。ただ神さまのあわれみによって、救われたのです。その私たちを神さまは、ご自分にふさわしく歩く者にしてください。恐れ、おののく私たちに神さまは寄り添ってください、私たちの震えを抱きとめてくださって、神さまを信頼することを教えてくださいます。ぎくしゃくとした私たちの歩みに手を添えて教えてくださいます。

【ひとりではなく】

神さまは「あなたとこのすべての民」(2)と呼びかけられました。神さまが私たちに教えるとき、神の家族を用いて教えてくださいます。神さまは、私たちひとりひとりに、律法の中心である、神さまを愛することと、たがいに愛し合うことを教えてくださいます。けれども、愛することは、実際に実行しなければ身につけることができません。くり返し教え合い、失敗しても赦し合い、愛のなさを告白し合って、励まし合う神の家族の中でしか、身につけることができないのです。でもそのようにゆっくりとした訓練であっても、それを繰り返していくなら、ほんとうに身につきます。神さまの家族にふさわしい立ち居振る舞いが身につけていくのです。

「強くあれ。雄々しくあれ」と私たちを抱きしめてくださる神さまが、私たちの愛の訓練を今年も支えてください。この神さまの愛を忘れることがないようにしましょう。今、この神さまの愛の中で、たがいに愛し合いつつ、主の愛の食卓、聖餐を共に囲もうではありませんか。